

音楽科学生の教育実習を実施

音楽科2年生の教職課程選択者15名が、3週間にわたる教育実習を5月から6月に実施しました。出身中学や附属中学校に受け入れていただき、教員も各中学校にて巡回指導を行いました。

緊張した面持ちながら、堂々と中学生の前で授業を進める実習生の皆さんを頼もしく感じました。この経験を生かし、努力を重ねていってほしいと思います。

実習生のために熱心に御指導くださった各中学校の先生方と、御協力いただいた中学生の皆さんには、改めて感謝申し上げます。

教育実習レポートから、学生を紹介します。

- ・「子どもが好き」ということを改めて実感することができ、教師の仕事にいっそう魅力を感じた。
- ・教師に一番必要不可欠な要素は、「生徒の成長を見守り喜ぶ力があること」であると思った。
- ・今後どのような教師になりたいか考えることができた。生徒にとって一番近い存在である大人、憧れられる教師になりたい。
- ・生徒をよく理解し、向き合っている先生方の姿が印象的で、教師という仕事の大変さ、深さを学びました。
- ・教えるという行為の中に、様々な工夫や努力があり、教える仕事の楽しさや魅力を感じた。相手のことを尊重し、寄り添い、共に考えていくことを大切にしたいと思う。
- ・教育実習で学んだことは、教師という立場の責任や仕事の多さである。教育実習を終えて感じた、自分に足りない力を伸ばしていきたいと思う。
- ・自分の伝えたいことを生徒に理解してもらうことの難しさを痛感した。教育実習を終えて、さらに教師になりたいという気持ちが強くなった。
- ・教育実習前は自分に自信がなかったが、生徒から「楽しかった」と言ってもらったり、先生方からも良いところをたくさん言ってもらって、自信になった。教材研究にも時間がかかったが、やればやるほどできることが増えたと感じた。

